

事業のあゆみ

平成元年度	「北九州市ルネサンス構想」で折尾を地域中心核に位置づけ
平成8年度	折尾まちづくり構想発表
平成12年度	地元組織「折尾駅周辺まちづくり推進協議会」発足
平成13年度	連続立体交差事業着工準備採択
平成14年度	折尾総合開発事務所を開設【平成20年度に現名称に変更】
平成15年度	折尾地区総合整備事業の都市計画原案に関する公聴会
平成16年度	連続立体交差・街路・土地区画整理事業の都市計画決定 街路事業 事業認可(日吉台光明線(駅前広場を含む)、乙丸折尾線【平成19年度に折尾青葉台線に名称変更】、折尾中間線、折尾南北線) 連続立体交差事業(全線) 事業認可
平成17年度	JR九州と基本協定を締結 街路事業(一部区間)、連続立体交差事業(トンネル区間)の 測量・調査及び用地買収開始
平成18年度	地元まちづくり団体「おりお未来21協議会」発足 連続立体交差事業 工事着手(トンネル区間より) 街路事業 事業認可(折尾東西線) 土地区画整理事業 事業計画の決定
平成20年度	おりお未来21協議会が「折尾まちづくりビジョン」提案
平成22年度	街路事業 事業認可(折尾堀川町線、JR筑豊本線側道2号線・3号線)
平成24年度	折尾駅仮駅舎・暫定北口駅前広場供用開始 土地区画整理事業 仮換地指定の開始(堀川町地区) 鹿児島本線 一次仮線切替
平成25年度	旧折尾駅舎調査・解体完了 土地区画整理事業 造成工事着手(堀川町地区)
平成26年度	折尾中間線(大膳二丁目)が開通
平成27年度	土地区画整理事業 仮換地指定の開始(東側地区・鉄道跡地地区)
平成28年度	鹿児島本線二次仮線切替
平成29年度	公共事業再評価を実施 折尾堀川町線が開通
平成30年度	筑豊本線切替(単線)
令和元年度	折尾中間線の暫定供用
令和2年度	筑豊本線切替(複線)、鹿児島本線本切替、新駅舎開業
令和3年度	短絡線切替、折尾駅周辺全線高架化完了

都市計画決定に至るあゆみ

平成8年、市は地域住民等とともに総合的なまちづくりを検討し、「折尾まちづくり構想」を策定しました。この構想のなかで、市街地を分断する鉄道を移設し、トンネル整備や高架化とあわせて駅周辺市街地を整備する計画が提言されました。

平成13年の北九州学術研究都市開設や福北ゆたか線電化など新しい動きが生じ、地域住民等でも「折尾駅周辺まちづくり推進協議会」が発足しました。

その後、「折尾を良くする会」などの「折尾地区総合整備事業の早期着工」を求める署名活動や住民大会が開催され、市は都市計画案を決定しました。

発行／問い合わせ先

〒807-0874
北九州市八幡西区大浦二丁目13-7

北九州市建築都市局
折尾総合整備事務所

TEL093-602-3108(事業調整課)

TEL093-691-2522(整備課)

FAX 093-602-3128



令和4年2月撮影

折尾地区総合整備事業

住みやすく、魅力的で、
にぎわいのあるまちづくり

折尾地区総合整備事業スケジュール

年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
街路事業	都市計画決定(3事業同時決定)																									
	北口駅前広場																<p>★仮駅舎供用</p> <p>暫定駅前広場整備 → 段階整備・暫定供用 → 全面供用</p>									
連続立体交差事業	トンネル工事																									
	トンネル工事 駅周辺高架工事(鹿児島本線、筑豊本線、短絡線)																<p>供用</p> <p>鹿児島本線一次仮線切替</p> <p>鹿児島本線二次仮線切替</p> <p>筑豊本線切替(単線)</p> <p>筑豊本線切替(複線)</p> <p>鹿児島本線切替</p> <p>短絡線切替</p> <p>★全線高架化完了</p> <p>★事業完了</p>									
新駅舎																	★新駅舎開業									
土地区画整理事業	先行買収																仮換地指定・建物移転・宅地整備									



折尾駅高架下複合公共施設(折尾まちづくり記念館・八幡図書館折尾分館)完成イメージ



令和4年3月発行
2116018B

北九州市

折尾地区総合整備事業

折尾地区の概要

「折尾地区」は、古くから石炭輸送の要衝として栄え、鉄道により我が国の産業の近代化に大きく貢献してきました。近年では隣接する遠賀・中間地域を含めた行政の中心地として、また、周辺部の住宅開発の進展と併せ、北部九州有数の学園都市として発展してきました。

[折尾駅]

- 明治24年 九州鉄道、筑豊興業鉄道が、それぞれ折尾駅を開業
- 明治28年 2社共同の折尾駅が完成(日本最初の立体交差駅)
- 乗車人員 約1万1千人/日(令和2年度JR九州管内第7位)

[学園都市]

- 大学4校・大学院6校、短期大学2校、高校5校、学生数 約1万3千人(北九州学術研究都市を含む)
(大学・大学院、短期大学、高校の市内在学者数の4分の1が集まっている)



大正初期頃の堀川運河(石炭輸送の川ひらた)



昭和9年頃(大正5年当時の姿)の折尾駅舎



学園大通りの若者

しかし、折尾駅周辺は、次のような問題を抱えています。

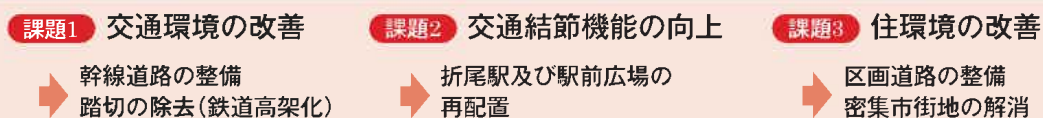
- 鉄道による市街地の分断、踏切による交通渋滞
- 道路などの基盤整備の遅れ
- 学園都市の玄関口として商業・業務・文化施設などの不足
- 古くからの密集市街地の存在



2つの鉄道が立体交差

折尾地区総合整備事業の概要

まちづくりの目標 **住みやすく、魅力的で、にぎわいのあるまちづくり**



これらの課題を総合的に解決し、折尾地区を「学園都市や学術研究都市の玄関口」にふさわしい地域拠点として再構築するため、

- 連続立体交差事業 ● 街路事業 ● 土地区画整理事業

を一体的に実施する「折尾地区総合整備事業」を進めています。

また、事業期間が長期にわたることから、工事期間中も快適に過ごすことができ、新しく完成した後も暮らしやすいまちの実現に向けて、**地域の方々と協働したまちづくり**を進めています。

効果1

「9箇所の踏切」の除却による**渋滞解消**

- 街路事業及び連続立体交差事業により幹線道路が改善されます。
- 人とモノの流れが安全でスムーズなまちが実現します。



整備前



整備後

平成31年3月 鉄道高架化により国道踏切を除去
街路事業により道路を拡幅(4車線化)

効果3

土地区画整理事業による「**住環境の改善**」

- 宅地や区画道路の整備により**土地利用**がしやすく**防災性**に優れた住環境が整備されます。



整備前

道路が狭く防災上の課題が多い



整備後

消防車や救急車が迅速に通れる区画道路

効果2

駅や駅前広場の整備による**交通結節機能の向上**

- 鉄道とバスの乗り換えや、送り迎えなどがスムーズになります。
- **バリアフリー化**の推進により、利用しやすい駅や駅前広場となります。



北口駅前広場整備イメージ



新しくなった折尾駅コンコース

効果4

民間投資の促進や**地域の活性化**に大きく寄与し、**活力のあるまち**が実現

- 駅周辺がまちの顔として一新し、新しく生み出される高架下の空間を活用することで、まちづくりの可能性が広がります。



駅周辺の民間開発プロジェクト例(折尾警察署跡地)



新しい駅前広場等で地域のイベントを実施予定

整備前



整備後



折尾駅周辺連続立体交差事業

- 連続立体交差事業では、鉄道による市街地の分断や踏切による交通渋滞の解消等を図るため、折尾駅周辺の鹿兒島本線、筑豊本線、短絡線の3つの鉄道においてトンネル化や高架化を行いました。
- 工事は、鉄道の運行をとめることのないよう、仮線切り替え(鹿兒島本線)等を行いながら、順次高架に切り替える手順により実施しました。

事業概要(総事業費 約501億円)

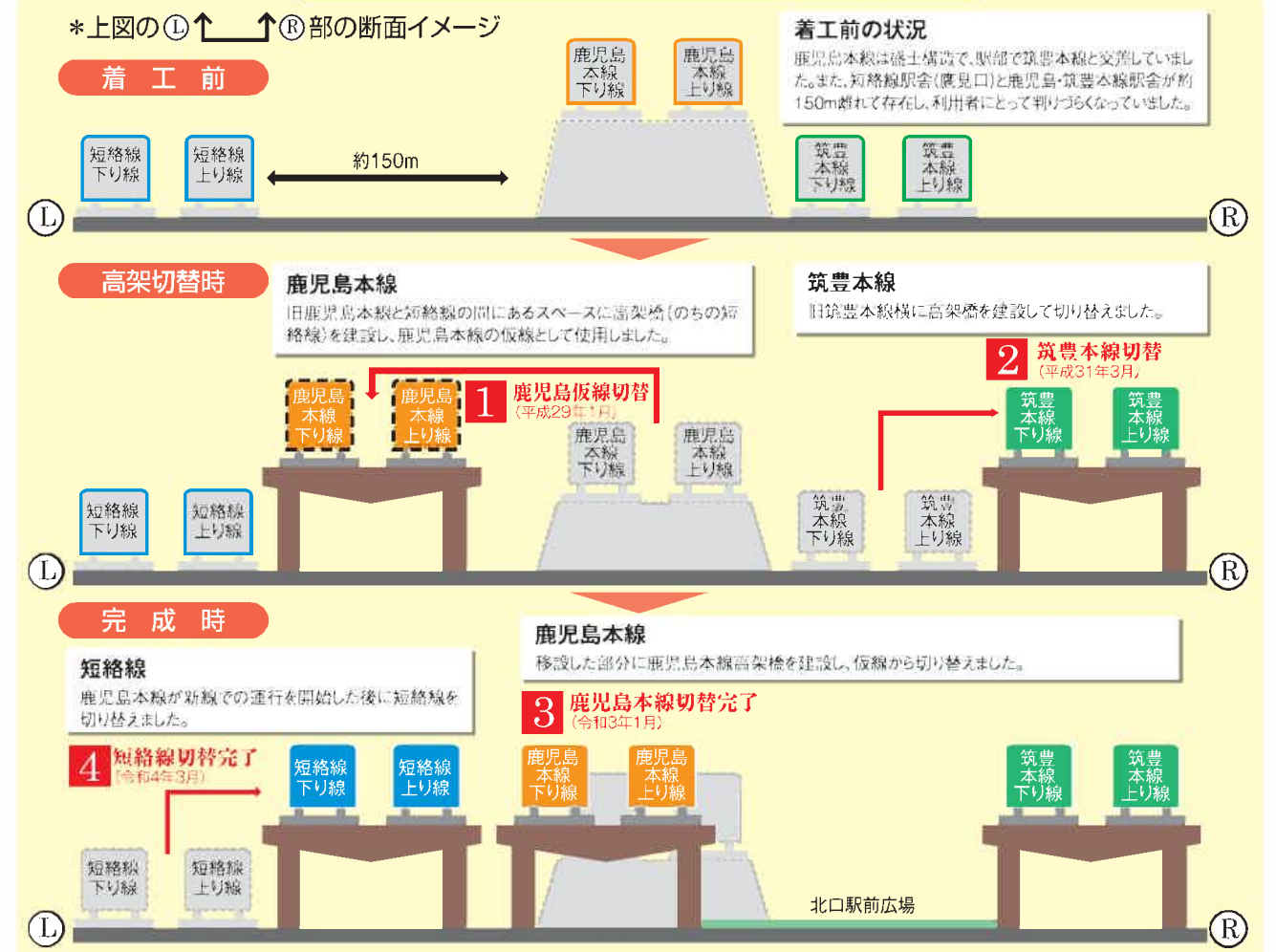
- 事業主体 北九州市
- 事業延長 約4.5km
 (鹿兒島本線 約2.1km
 筑豊本線 約2.4km)
- 施行期間 平成16年度～令和6年度

鉄道の切替概要図



- 平成18年度に連続立体交差事業の工事(トンネル区間より)に着手しました。
- 平成29年1月に鹿兒島本線を高架の仮線(のちの短絡線)に切り替えました。【下図1】
- 平成31年3月に筑豊本線を高架【下図2】に、令和3年1月に鹿兒島本線を高架に切り替えました。【下図3】
- 令和4年3月に短絡線を高架に切り替え【下図4】折尾駅周辺の鉄道切替は全て完了しました。

駅付近での鉄道の切り替え手順イメージ図



折尾土地区画整理事業

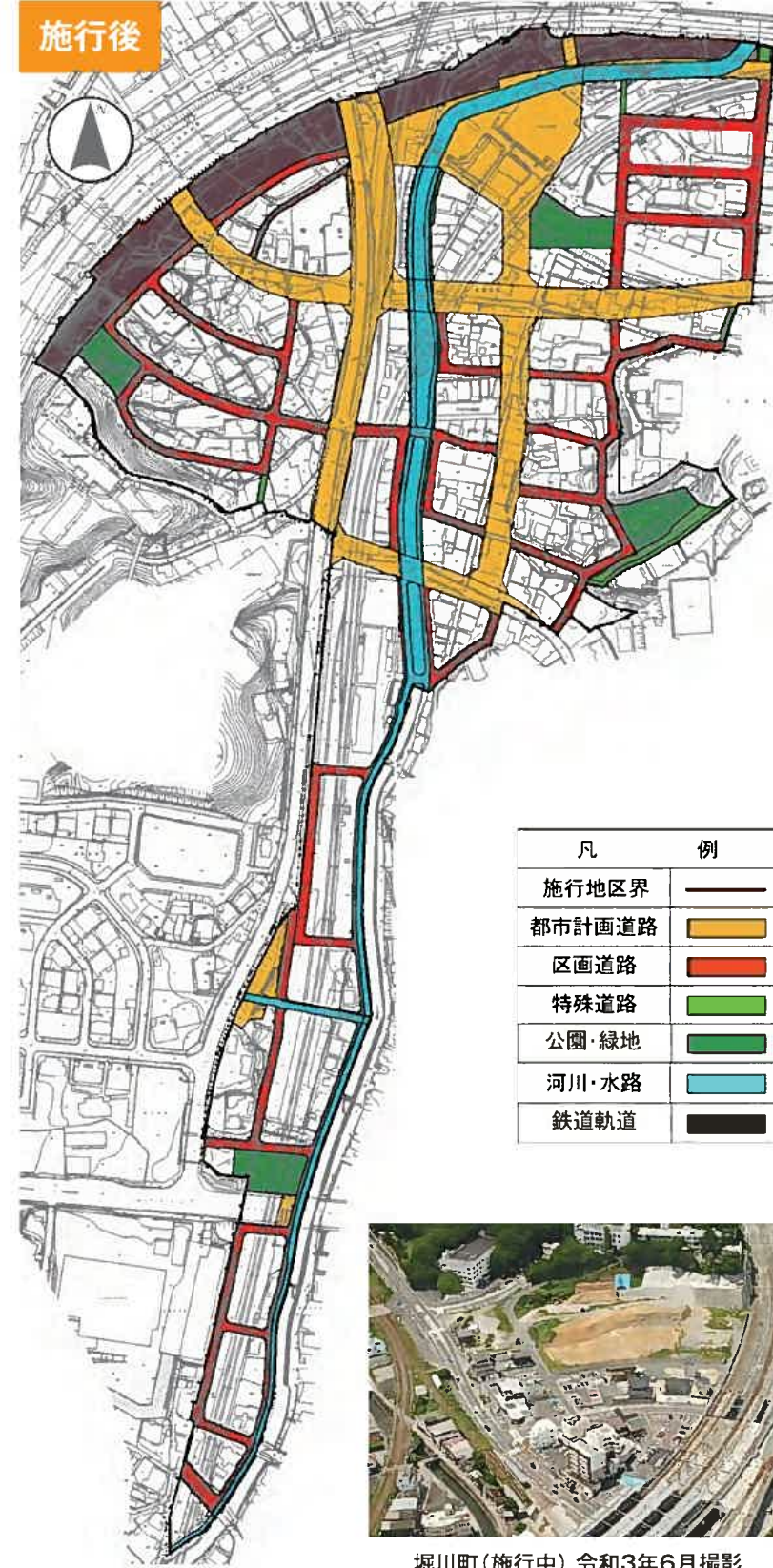
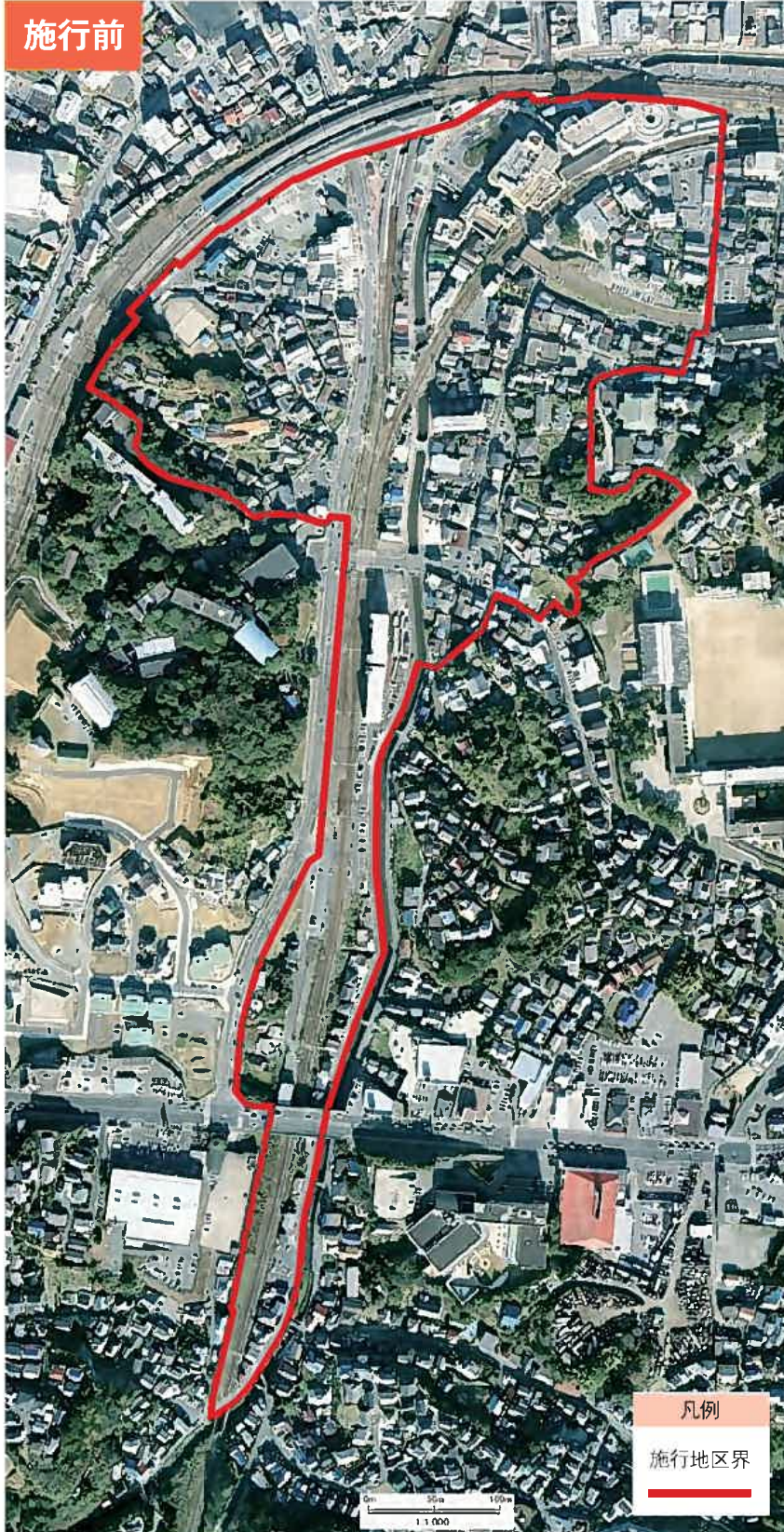
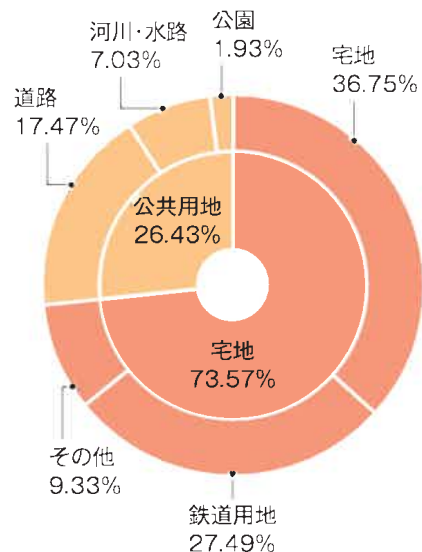
- 折尾駅南側の土地区画整理事業では、住環境の改善や、防災性の向上を図り、将来にわたって安全・安心に暮らせるまちづくりを目指しています。
- 事業は、連続立体交差事業の進捗に合わせて進めています。

- 道路は地区内の都市計画道路を骨格として、交通の円滑化と安全性並びに土地利用の増進を図るため、区画道路を配置するとともに歩行者専用道路を適宜配置します。
- 公園は地区面積の3%以上の面積を確保するとともに、誘致距離を考慮して適宜配置し、都市環境の保全を図ります。

事業概要

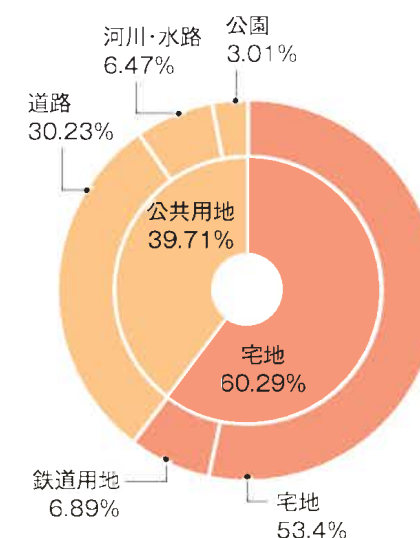
- 事業主体 北九州市
- 施行面積 約16.9ha
- 総事業費 約246億円
- 施行期間 平成18年度～令和10年度
- 平均減歩率 約18% (減価買取前 約23%)

土地利用(施行前)



土地利用(施行後)

区分	面積(m)	(%)
道路	51,002.99	30.23
公園	5,070.00	3.01
河川・水路	10,911.00	6.47
計		39.71
宅地	101,707.18	60.29



主な公共施設

道路計画

区分	幅員(m)
3号	25
折尾中間線	17
折尾東西線	17
折尾駅南口線 (駅前広場含む)	17
東筑堀川町線	15
折尾堀川町線	15
区画道路	4~12
特殊道路	4~8

公園計画

街区公園 4か所



堀川町(施行前)



堀川町(施行中) 令和3年6月撮影

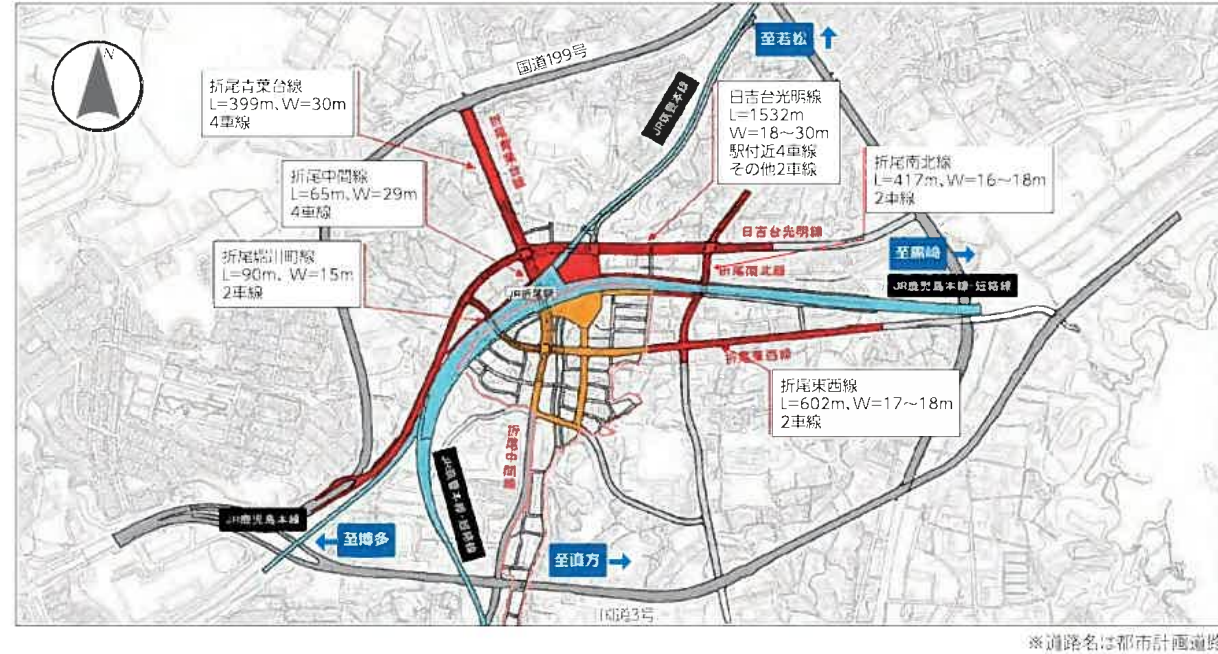
街路事業

- 街路事業では、折尾駅周辺の交通渋滞を解消し、折尾駅へのアクセス改善や回遊性の向上を図ることで、沿道商業が活性化し、安心して安全に移動できるまちづくりを目指しています。
- 事業内容は、鉄道の高架化に合わせて、折尾駅周辺の道路の拡幅、新設及び折尾駅北口駅前広場の整備を行っています。

事業概要(総事業費 約188億円)

- 事業主体 北九州市
- 事業延長 約3.7km
- 北口駅前広場 約9,800㎡
- 施行期間 平成16年度～令和10年度

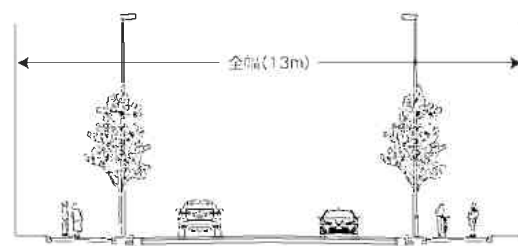
整備計画図



● 整備例(日吉台光明線)

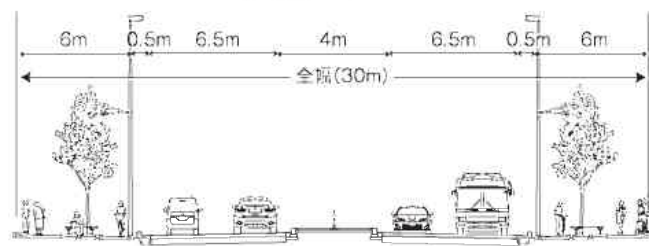
整備前

現況断面図



整備後

4車線道路断面図



整備前



整備イメージ



折尾駅駅前広場の整備計画

駅前広場は、鉄道とバスの乗り継ぎや自家用車による送迎などがスムーズになり、また、駅周辺がまちの顔として新しく生まれ変わるなど、魅力的でにぎわいのある街づくりに大きく寄与するものです。

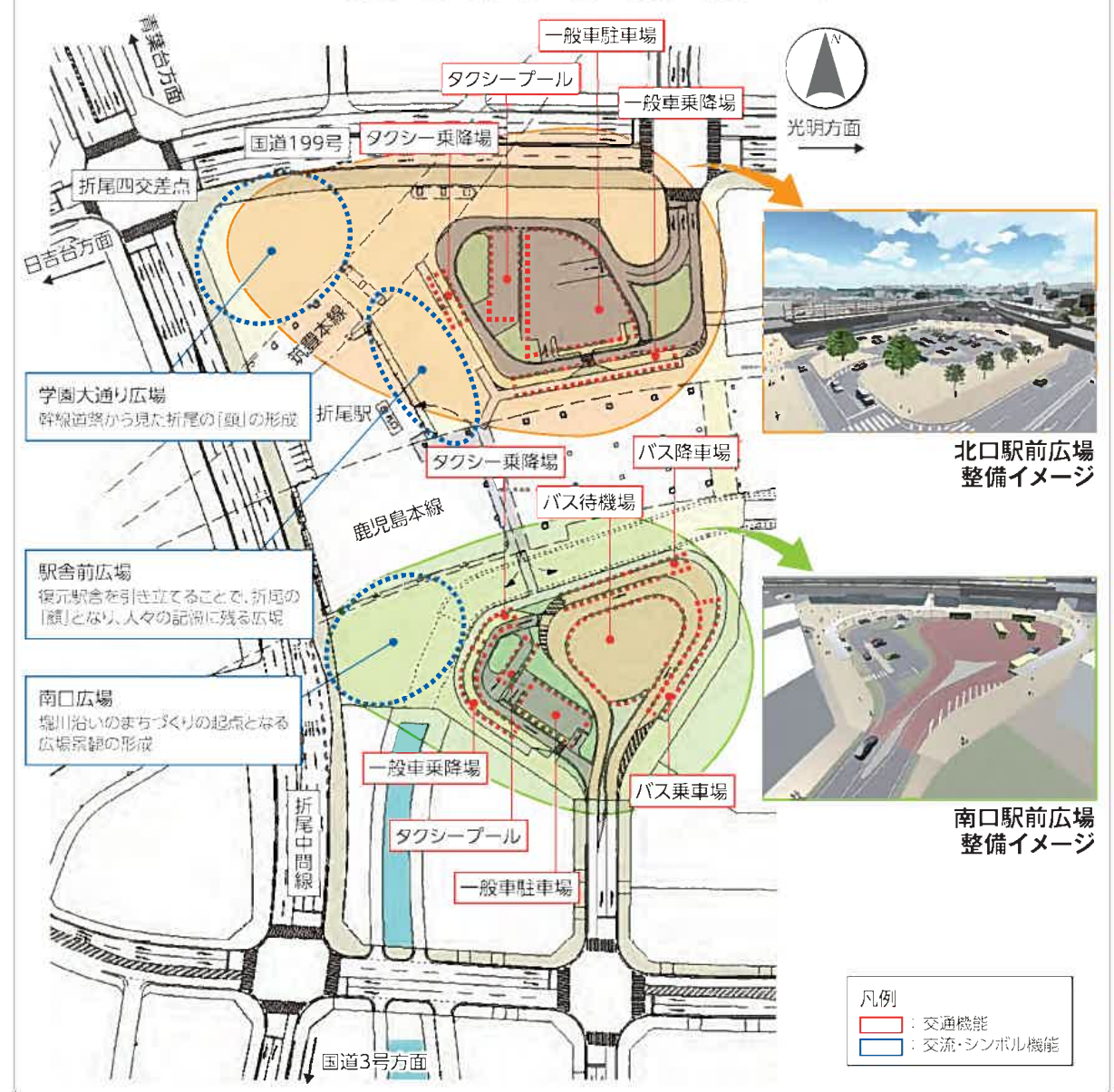
おりお未来21協議会や学識経験者、障害者福祉団体、警察、交通事業者などの意見を伺いながら、令和元年10月に駅前広場の計画をまとめました。

駅前広場の計画の概要

- (1) 規模
北側 9,800㎡、南側 8,020㎡、合計 約18,000㎡
- (2) 基本方針
「交通機能」と「交流・シンボル機能」の二つの機能を持った駅前広場とする。
- (3) 交通機能の配置方針
○地域の交通実態に即した、利用しやすい駅前広場とする。
・バスは南側に集約し、分かりやすくする。
- (4) 交流・シンボル機能の配置方針
○新しい市街地の発展に寄与する広場とする。
・イベントを通じたまちの活性化
・学生や近隣住民が憩える場の提供
・「学園都市」の名にふさわしい、豊かな景観形成によるまちのイメージ向上

駅前広場の計画図

※この計画図は、今後の設計や施工の経緯で一部変更の可能性があります。



市の目指す折尾駅周辺の土地活用イメージ

市の目指す折尾駅周辺の土地活用イメージ案をとりまとめました。

折尾駅周辺の高架工事等の進捗などにより、街の姿が大きく変わっていくにつれ、地元では、まちづくりに向けた期待が高まるとともに、高架下を含めた駅周辺のにぎわいづくりや地域全体の活性化への要望などが寄せられています。市としては、高架下及び駅周辺の土地は、新たに生み出される貴重な空間であることから、市が実施した高架下利用アンケート調査や、八幡西区議員協議会からの申し入れ等を踏まえ、この度、市の目指す折尾駅周辺の土地活用イメージ案を作成しました。

土地活用イメージの実現に向けて、関係機関との協議や南口駅前広場に近接するエリアの地権者との勉強会などに取り組んでいます。



折尾駅高架下複合公共施設【折尾まちづくり記念館、八幡図書館折尾分館】



完成イメージ

令和4年春に折尾駅高架下にオープン!

折尾まちづくり記念館

折尾のまちづくりの歴史に関する情報の収集及び提供を行うとともに、住民等の交流及び自主的活動の場を提供することにより、折尾のまちづくりの推進に資する施設。

○施設の構成

- (1) 折尾地区のまちづくりの記憶を継承できる ⇒ 「記念館(展示)機能」
- (2) 地域住民等がまちづくり活動に利用できる ⇒ 「会議室」
- (3) 子育て世代や学生等も気軽に滞在できる ⇒ 「フリースペース」「屋外オープンスペース」

八幡図書館折尾分館

図書等の収集、保存及び市民等による利用を目的とし、市民の教育と文化の発展に資する施設。

○施設の構成

- (1) 閲覧室 (閲覧席、書架)
- (2) 幼児コーナー
- (3) 屋外読書スペース

地域と協働したまちづくり

折尾地区総合整備事業による折尾地区の再生・活性化に向けたまちづくりを進めるため、自治会や折尾商連など地元団体が集まり、「おりお未来21協議会」が平成18年4月に設立されました。協議会では、約1年間で延べ50回以上の検討を重ね、平成20年6月に「折尾まちづくりビジョン」を市に提言しました。

折尾まちづくりビジョン



市長への提言



検討の様子

折尾地区が目指すもの

「人が主役、やさしいまち」

- ① 商業を中心とした賑わいの創造
- ② 公共施設(駅前広場・街路・公園等)のデザインや景観形成
- ③ 歴史的建造物の保全と活用
- ④ すべての人にやさしく、安全・安心なまちづくり



このビジョンを踏まえ、駅舎の保全・活用や駅周辺市有地の早期開発着手など、協議会をはじめとする地域の要望も聞きながら、より良い折尾のまちづくりの実現に向け、地域と協働した取り組みを進めています。



大正5年当時の駅舎の外観を可能な限り再現した新折尾駅舎(左上:旧駅舎外観、右下:新駅舎外観)



駅舎内の待合室に旧駅舎の化粧柱、円形ベンチを活用し再現(左上:旧駅舎待合室、右下:新駅舎待合室)



駅前広場景観デザイン計画の策定
●使いやすい駅前広場、折尾らしい駅前広場、交流の場となる駅前広場をデザイン方針に計画を策定

工事期間中のにぎわいづくり

事業用地などを活用し、地域の方々と連携してにぎわいづくりに取り組んでいます。



ありがとう折尾駅舎
折尾駅舎解体の感謝イベント(来場者3万人)(平成24年10月)



折尾イルミネーション
イルミネーションの点灯とバンド演奏などのイベント開催(令和2年11月)



オリオンピック
Zoomを利用し、折尾にちなんだレクリエーション競技で競い合う(令和3年9月)



高架ウォーク
事業の進捗の実感とにぎわいづくりを目的として開催(来場者5,210人)(令和2年2月)

PR ルーム

折尾地区総合整備事業の進捗状況や将来イメージなどを地域の方々により分かりやすくお知らせするため、堀川町のTSハウス1階(市営バス折尾駅前案内所内)に「折尾地区総合整備事業PRルーム」を開設しています。

- 利用時間 平日:午前10時~午後7時
土曜・休日:午前10時~午後5時
- 所在地 八幡西区堀川町4番10号 (TSハウス 1階)
- 展示内容・折尾地区総合整備事業概要
・ 駅周辺完成予想立体模型
・ 将来イメージ図
・ 事業パンフレット など

